乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)について

1 乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の概要

(1) 乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)とは

全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化するため、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位で柔軟に利用できる制度です。

(2) 本格実施までのスケジュール

- 令和6年度 制度の本格実施を見据えた試行的事業
本市では6月から公立保育園(赤荻保育園と長沼保育園)で実施
- 令和7年度 児童福祉法に基づく乳児等通園支援事業として制度化するとともに、
子ども・子育て支援法に基づく地域子ども・子育て支援事業として実施
本市では実施施設を公立保育園のほか、私立保育園等に拡大予定
- 令和8年度 子ども・子育て支援法に基づく新たな給付として全国の自治体で実施

(3) 事業の利用について

対 象	利用者は6カ月以上～3歳未満で保育所等に通っていないこども
利用可能時間	1人当たり月 10 時間(令和 7 年度の利用可能時間。令和 8 年度以降は未定)
利用方法	保護者が市へ申請し、認定手続きを行った後、施設に直接予約等を行う
利用料	各施設で設定(公立保育園では1時間当たり200円。生活保護等の世帯及び市民税非課税世帯は0円)

(4) 施設及び運営に関する基準等について

施設の設備及び運営に関する基準について、本条例で定めるものです。

対象施設 (条例第22条・ 第26条関係)	保育園、幼稚園、認定こども園、家庭的保育事業者等、認可基準を満たす施設(令和7年度は公立保育園のほか、私立保育園、認定こども園、家庭的保育事業者等で実施予定)
認可・確認	児童福祉法に基づく「認可」と子ども・子育て支援法に基づく「確認」が必要
実施方法 (条例第21条関係)	一般型 : 施設の利用定員と関係なく、定員を設定し乳幼児を受け入れる方法 余裕活用型 : 施設を利用する児童の数が施設の利用定員に達しない場合に、利用定員の範囲内で乳幼児を受け入れる方法

設備の基準 <small>(条例第22条・ 第26条関係)</small>	<p>一般型 : 乳児又は満2歳に満たない幼児を利用させる場合の部屋の面積は、乳児室1人につき1.65㎡以上、ほふく室1人につき3.3㎡以上。満2歳以上の幼児を利用させる場合は、保育室又は遊戯室の面積は1人につき1.98㎡以上</p> <p>余裕活用型 : 保育所等の各施設又は事業の基準による</p>
人員配置基準 <small>(条例第23条・ 第26条関係)</small>	<p>一般型 : 乳幼児の年齢及び人数に応じて保育従事者等を配置(0歳:園児3人に対し保育士1人、1・2歳:園児6人に対し保育士1人)。そのうち保育士を2分の1以上とする(保育従事者の数は2人を下ることができない)。保育士以外の保育従事者は研修(子育て支援員研修又は家庭的保育者基礎研修と同様の研修)を修了した者とする</p> <p>余裕活用型 : 保育所等の各施設又は事業の基準による</p>

2 令和7年度の実施予定施設

公立保育園3園及び私立保育園等4園(保育園2園、認定こども園1園及び小規模保育事業所1園)の合計7園で実施を予定しております。

施設名		種別	利用定員	事業開始年月日
公立保育園	長沼保育園	一般型	6名	令和7年4月1日
私立認定こども園	はくと幼稚園	一般型	6名	令和7年5月1日
公立保育園	小御門保育園	余裕活用型	施設の 利用定員 の範囲内 で実施	令和7年4月1日
公立保育園	赤坂保育園	余裕活用型		令和7年4月1日
私立保育園	キートスチャイルドケア 美郷台	余裕活用型		令和7年4月1日
私立保育園	キートスチャイルドケア 公津の杜	余裕活用型		令和7年4月1日
私立小規模保育 事業所	キートスベビーケア 公津の杜	余裕活用型		令和7年4月1日

※ 年度の途中に施設から実施の意向が示された場合は、状況等を確認の上、適宜、認可等を行います。